

# 令和6年度 滋賀県 英語教育改善プラン

## 目標

日常生活や自分のことなど身近で簡単な事柄について、概要を捉え、簡単な語句や基本的な表現を用いて発信することができる。

### 1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

#### ①校種間連携の強化

\*英語教育に関する中学校との連携の状況

R4 80.6% → R5 86.7%

R6 目標値：100.0%

#### ②児童の言語活動時間

\*授業中、75%以上の時間、言語活動を行っている割合

R4 47.7% → R5 54.0%

R6 目標値：60.0%

未だ改善が必要な点

#### ①CAN-DOリストの設定状況

\*学習到達目標の公表について

R4 41.8% → R5 55.5%

R6 目標値：70.0%

\*学習到達目標の達成状況の把握について

R4 80.9% → R5 80.9%

R6 目標値：85.0%

### 2. 要因分析

#### ①校種間連携の強化

公開授業研究会等において、校種間交流をする機会が増えている。

#### ②児童の言語活動時間 (授業時間の75%以上)

教員研修等を通じて、「言語活動を通じた指導」の意義が理解されてきたため、授業における言語活動の時間が75%以上に達した学校が増加している。

#### ①CAN-DOリストの設定状況

\*学習到達目標の公表

学校だよりやホームページを活用し、保護者や地域の方にまでは公表していない学校が見られる。

\*学習到達目標の達成状況

CAN-DOリストの設定は100%であるが、示された学習到達目標とパフォーマンステストにおける評価が結び付いていない傾向がある。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

#### 【ア】英語発信力育成事業

①校種間連携の強化 ②児童の言語活動時間 (75%以上)

##### ①CAN-DOリストの設定状況

- ・小・中において「新滋賀県モデルCAN-DOリスト（令和4年度版）」を活用した指導と評価の一体化に関する実践研究を行う。
- ・公開授業を通して、モデルとなる授業や学習者用デジタル教科書における効果的な活用について普及を図る。
- ・小中接続を目指した系統的な指導のモデルを県内に普及する。

#### 【イ】小学校英語パイオニア実践プロジェクト

①校種間連携の強化 ②児童の言語活動時間 (75%以上)

##### ①CAN-DOリストの設定状況

- ・指導主事が訪問し、指導助言を行う。校種を越えた公開授業および授業研究会を実施し、言語活動を通じた指導やICTの活用について広く普及するとともに、小中連携の機会とする。

#### 【ウ】英語授業改善協力校事業

①校種間連携の強化 ②児童の言語活動時間 (75%以上)

##### ①CAN-DOリストの設定状況

- ・言語活動を通じた指導について、モデルとなる授業を県内に広く普及するとともに、英語教育を担うリーダーの育成を目指す。学習者用デジタル教科書の活用についても、言語活動の充実につながる実践を広める。

# 令和6年度 滋賀県 英語教育改善プラン

## 目標

日常的な話題や社会的な話題について、要点を目的に応じて捉え、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて相手に発信することができる。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 52.7% ⇒ R6 : 55.0%)

### 1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

#### ①生徒の英語力

\*CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合

R4 49.8% → R5 52.7%

R6 目標値 : 55.0%

#### ②教員の英語力

\*CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の回数

R4 34.6% → R5 47.1%

R6 目標値 : 50.0%

- R5全国学調における「書くこと」「話すこと」調査において、生徒の発信力に課題があることが明らかになった。

#### ①教員の英語使用状況

\*英語担当教員の授業における英語使用状況が50%以上

R4 86.7% → R5 73.5%

R6 目標値 : 90.0%

#### ②生徒の言語活動時間

\*授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている割合

R4 78.2% → R5 78.9%

R6 目標値 : 90.0%

未だ改善が必要な点

### 2. 要因分析

#### ①生徒の英語力

研修や授業研究会の実施により、授業改善が進んでおり、言語活動を通じた指導が増えている。

#### ②教員の英語力

悉皆で、英語力向上に係る研修を実施しており、英語力向上の動機付けにつながっている。

- 全国学調の結果を踏まえた授業改善がなされる必要がある。以下の①②を改善することが、生徒の発信力向上につながると思われる。

#### ①教員の英語使用状況

生徒への指示等を英語で行ってはいるが、言語活動が充実するような英語の使用状況になっていない。

#### ②生徒の言語活動時間

昨年度と比して、言語活動時間の割合は微増した。しかし、学校により言語活動時間に差がある状況である。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

#### 【ア】英語発信力育成事業

①生徒の英語力

①教員の英語使用状況 ②生徒の言語活動時間

- ・小・中において「新滋賀県モデルCAN-DOリスト（令和4年度版）」を活用した指導と評価の一体化に関する実践研究を行う。
- ・公開授業を通して、モデルとなる授業や学習者用デジタル教科書の効果的な活用について普及を図る。
- ・小中接続を目指した系統的な指導のモデルを県内に普及する。

#### 【イ】英語インプルーブメントセミナー

①生徒の英語力 ②教員の英語力

①教員の英語使用状況 ②生徒の言語活動時間

- ・教員の英語力、主にスピーキング能力の向上に係る研修を行うことで、自身の英語力向上の研鑽に継続的に励む動機付けを行う。
- ・英語によるコミュニケーションを主体とした研修が言語活動を通じた指導につながるような内容にする。

#### 【ウ】英語授業改善プロジェクト学校訪問

①生徒の英語力

①教員の英語使用状況 ②生徒の言語活動時間

- ・3年間で全ての県内中学校および義務教育学校を訪問し、学習者用デジタル教科書の効果的な活用方法等について、指導主事が助言を行う。

# 令和 6 年度 滋賀県 英語教育改善プラン

## 目標

日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりした内容を目的に応じて捉えたり、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに書いたり、話したりして、相手に発信をすることができる力を育成する。

○CEFR A2相当以上の英語力をもつ生徒の割合 本県の目標 (R5 : 52.1% ⇒ R6 : 54.0%)

○CEFR B1相当以上の英語力をもつ生徒の割合 本県の目標 (R5 : 15.5% ⇒ R6 : 20.0%)

### 1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

#### ①生徒の英語力の向上

\*CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合

R4 48.3% → R5 52.1%

R6 目標値 : 54.0%

#### ②教員の英語力の向上

\*CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合

R4 71.5% → R5 78.2%

R6 目標値 : 80.0%

未だ改善が必要な点

#### ①パフォーマンステストの実施

\*スピーキングとライティングの両方を実施した割合

R4 20.8% → R5 41.7%

R6 目標値 : 60.0%

#### ②生徒の言語活動時間の確保

\*授業における、生徒の英語による言語活動の割合 (50%以上)

R4 40.5% → R5 54.5%

R6 目標値 : 80.0%

#### ③教員の英語使用率の向上

\*英語担当教員の授業における英語使用状況 (50%以上)

R4 31.0% → R5 30.6%

R6 目標値 : 60.0%

### 2. 要因分析

#### ①生徒の英語力の向上

言語活動の充実を目指した授業改善が進み、4技能5領域をバランス良く学ぶ生徒が増え、英語力向上につながった。

#### ②教員の英語力の向上

県内の英語研修では、英語による研修に取り組んだ。英語力向上への意識が高まっている。

#### ①パフォーマンステストの実施

パフォーマンステストの実施状況の改善に取り組み、指導と評価の一体化が効果的に進める必要がある。

#### ②生徒の言語活動時間の確保

聞いたり、読んだりしたことを話したり、書いたりする領域統合の指導の充実を図る必要がある。

#### ③教員の英語使用率の向上

授業をコミュニケーションの場とした授業計画や言語活動を通した生徒の英語力向上という授業の意図を明確にする必要がある。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

#### 英語教育インフルエンサー育成プロジェクト

各校における英語教育インフルエンサーの育成を通して、効果的な授業改善を図り、県英語教育の充実を図る。

#### 【ア】 英語教育エッセンシャル研修

- ①生徒の英語力の向上
- ②教員の英語力の向上
- ①パフォーマンステストの実施
- ②生徒の言語活動時間の確保
- ③教員の英語使用率の向上

次の3点に係る英語シリーズ研修の実施。各研修では外部有識者による講演やワークショップなどを実施し、実効性の高い研修を目指す。

1. 授業改善の意義と目的を理解すること
2. 授業改善を図るために必要なリソースとスキルの習得を目的とすること
3. 授業改善を進めるための英語教員のネットワークや英語科の組織づくりを構築することなどを目標とすること

#### 【イ】 授業改善プランナー養成プロジェクト

- ①生徒の英語力の向上
- ②生徒の言語活動時間の確保
- ③教員の英語使用率の向上

授業改善プランナーとして推薦を受けた英語教員が、外部有識者等の指導助言を受けながら、言語活動を通した生徒の英語力向上を目指す授業改善の授業研究に取り組む。県内英語科教員向けに公開授業を行い、授業改善の一例を示すことで、県英語教育の充実を図る。

滋賀県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	53.0	52.1	54.0		56.0		58.0		60.0		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20.0	15.5	20.0		24.0		28.0		30.0		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	80.0	54.5	80.0		80.0		80.0		80.0		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	50.0	41.7	60.0		70.0		80.0		90.0		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		公表(%)	60.0	41.2	60.0		70.0		80.0		90.0	
		達成状況の把握(%)	60.0	43.1	60.0		70.0		80.0		90.0	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	75.0	78.2	80.0		82.0		84.0		86.0		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	60.0	30.6	60.0		60.0		60.0		60.0			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	55.0	52.7	55		57		59		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	90.0	78.9	90		90		90		90		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100.0	81.6	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0	100.0	100		100		100		100	
		公表(%)	100.0	71.4	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	80.0	74.5	80		85		90		95	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50.0	47.1	50		52		54		56		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	90.0	73.5	90		92		94		96			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	50	55.5	60		70		80		90
		達成状況の把握(%)	85	80.9	85		90		95		100